

《メモリーキーの種類》

- 【M+】** (メモリープラス) … 表示されている数値を電卓に保存 (加える)
- 【M-】** (メモリーマイナス) … 表示されている数値を電卓から除去 (減らす)
- 【MR】** (メモリーリコール) … 電卓に記憶されている(そこまでの加算・減算の結果の)数値を表示 (起こす)
- 【MC】** (メモリークリア) … 電卓に記憶されている(そこまでの加算・減算の結果の)数値を消去 (すべて消す)
- 【MRC】** (メモリーリコールクリア) … **【MR】** と **【MC】** の機能の両方を併せ持つ

具体的な数値例を用いて、メモリー機能を使ってみましょう！

〔例〕商品有高帳 (移動平均法)

- ・ 1 回目の商品の購入が @100 円で 70 個
- ・ 2 回目の商品の購入が @130 円で 80 個

払出単価を平均法で計算してみましょう。

〔計算過程は以下になります〕

$$\frac{@100 \text{ 円} \times 70 \text{ 個} + @130 \text{ 円} \times 80 \text{ 個}}{70 \text{ 個} + 80 \text{ 個}} = @116 \text{ 円 (平均単価)}$$

〔電卓のキー入力の流れを見てみると〕

『100』『×』『70』『=』 →→ 7,000 と表示されます。

ここで **【M+】** を押します。メモリーに 7,000 が記憶されています。

『130』『×』『80』『=』 →→ 10,400 と表示されます。

ここで **【M+】** を押します。

メモリー内に 7,000 と 10,400 の合計である 17,400 が記憶されています。

ここで **【MR】** を押します。そこまでのメモリーの集計値 (17,400) が表示されます。

『17,400』『÷』『150』『=』 →→ 116 と表示されます。

最後に **【MC】** を押してメモリーを消去しておくのを忘れないように！

(メモリーが残っている状態ですと、液晶画面に「M」と表示されています。)

